

第4回益子町図書館基本計画策定委員会 議事録

日時:令和3年5月20日(木) 15時~17時30分

場所:益子町中央公民館第1研修室

出席者:委員 14名、アドバイザー4名、事務局5名

欠席者:5名

次第

1 開会

2 あいさつ

3 内容

(1)4/15 視察報告について

(2)4/17 ワークショップ、講演会報告について

(3)アンケート結果、ワークショップ結果の分析について

(4)今後のスケジュールについて

(5)その他

4 その他

5 閉会

課長/みなさん、こんにちは。時間になりましたので、始めさせていただきます。図書館基本計画策定委員会の第4回目を開催させていただきます。では、2番の挨拶になりますが、まずはじめに委員長よりご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長/今回で4回目ということで、いろいろと内容も煮詰まってきたと思うのですが、さらに今日は深めて、よりよい図書館建設に向けていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

課長/ありがとうございました。では、引き続きまして、教育長よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

教育長/あらためまして、みなさまこんにちは。今年は梅雨入りが早く、沖縄とか九州の方は例年より2日も早く梅雨入りしましたが、この辺はまだ発表されていません。でも、雨が続いていて蒸し暑いなということがありますけれども、みなさんの顔は晴れやかですね。

今日は第4回の策定委員会ということで、お集まりいただき、まことにありがとうございます。4月15日でしたが、先進地視察ということで、須賀川市民交流センター、そして白河市の図書館に視察ということで、皆様にも行っていただきました。2つの施設とも、それぞれ参考になったのではないかと思います。この後、報告がございます。

4月17日土曜日にはワークショップ、午後は講演会ということで、皆様にもご出席いただきました。大変ありがとうございました。

ここで紹介になりますが、教育委員会生涯学習課主管で、益子町の公式ホームページの中に図書館関係のことが、アップされています。確認しますと、これまでの基本構想の委員会8回、それから、この基本計画策定委員会のこれまでの活動も載せております。

その他、図書館関係ということでは、読書の新たな取組みで、読み聞かせのボランティアの会、かたつむりの会の方々に行っていただくのですが、明後日、天気が良いければ野外での読み聞かせ、おはなし会があります。同時に、図書館の本も貸し出す取組みが予定されております。土曜日の午前中からは、北公園ですね。10時からと11時。午後の1時半と2時半からが南公園で行われます。明後日のことですが、どうぞ、皆様方にもより多くの方にご紹介いただければと思っております。

本日はこの後、報告、ワークショップ、それからこの委員会を通して、令和7年開始予定としております益子町の図書館、一人でも多くの方が作ってよかったねと喜んでいただけるような、益子ならではの図書館づくりとなりますので、本日もいつも通り、楽しく積極的にご参加いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。最後になりましたが、今日もアドバイザーさん、どうぞよろしくお願いいたします。挨拶とさせていただきます。

課長／ありがとうございました。それでは、次第の3番に移ります。ここからは、委員長に進行をお願いいたします。

委員長／それでは、内容に入りたいと思います。(1)4月15日の視察報告。それから(2)4月17日のワークショップ、講演会報告について。これは続けて事務局の方から説明をお願いします。

事務局／それでは、次第を1枚めくっていただきますと、視察報告ということで資料がございますので、そちらをご参照いただきながらお願いいたします。それでは2つの図書館を視察させていただきましたので、ご報告させていただきます。

まずは福島県の須賀川市民交流センターtetteでございます。須賀川市民交流センターは直営で、施設内には須賀川市図書館、収容規模200人のホール、生涯学習支援と貸館機能を持つ市民交流センター、一時的な乳幼児の預かりルーム、ミニアスレチック広場、円谷英二ミュージアムがあります。1階にはコンビニエンスストアや企業を目指す方にテナントを貸し出すチャレンジショップも入っています。従来の複合施設では、こうした多種多様な施設が雑居している状態にとどまりがちなのですが、須賀川市においては、それぞれの施設が一体となり、融合施設として機能していました。それには、工作室の近くにはモノづくりの本、楽器演奏ができる部屋の近くには音楽の本というように、各施設に応じた本を付近に配し、興味を持ったらすぐその場で借りられる、「どこでも図書館」の要素が大きな役割を果たしているように思いました。建物も特徴的で、道の傾斜をそのまま活かした1階から、各フロアを緩やかにスロープで巡りながら上階に向かえるよう

になっていました。建物のコンセプトそのままに、町中から館内へと人の流れを生み出すような、活気ある施設でした。

続きまして、同じく福島県の白河市立図書館、こちらも直営です。JR 白河駅に隣接し、二階席からは白河小峰城が望める好立地にありました。司書の育成に大変力を入れてらして、視察の折には毎週行っている選書会議を見学させていただいたのですが、直営の図書館でもなかなかない、密度の高い会議だと感じました。所蔵資料は、複製絵画や楽譜等バラエティに富んだもので、本の排架におきましても、たとえば医学の本で、手に取りやすい、読みやすい本は医学的根拠に乏しかったりするのですが、根拠の有無で排架場所を分けることで目的に応じた本が見つけやすいよう、心配りされていました。また、市立図書館としては珍しく、県内の観光情報を集めて復興支援としていたり、本の購入を希望する利用者と書店の橋渡しをしたりと、地域を支える図書館としての力強さも感じられました。

以上、ご報告いたします。

事務局／引き続き、ワークショップについてご報告させていただきたいと思います。4月17日に行われたワークショップですが、20人以上の方にご参加いただきました。AからCの3つのグループに分かれ、益子町のことや、自分自身のこと、図書館のこと、これらに関わる過去、現在、未来について、それぞれに書き出すという作業を行いました。ワークショップの導入にあたって、益子の歴史から圓通寺の大沢文庫を引き合いに出して、益子町の歴史から過去、現在、未来を、図書館を軸にして考えていきましょうというお話がアドバイザーからありました。各グループで、それぞれ付箋に書いたものを模造紙に貼り出していったのですが、それぞれの考えや想いが重なる部分から徐々に話が弾んでいき、非常に盛り上がりを見せまして、図書館整備の今後に大いに期待を感じるところでありました。話し合われた内容については、現在こちらに持ってきているのですが、昨日までずっと1階エントランス部分に掲示させていただいておりました。こちらについて、一部抜粋にてご紹介させていただきたいと思います。益子の歴史的事柄として、宇都宮家に関すること、地蔵院のこと、先ほど述べたような大沢文庫のことなど、益子には由緒ある場所がたくさんあって、そういった歴史的な事柄を調べる郷土資料がもっとたくさんあるはずなのに、図書室には見あたらないといったことや、素晴らしい地域の歴史があるのに、どうして図書館がなかったのだろうかというお話が出ました。そして、もう少し最近のことと言えば、平成の初めに益子で図書館建設の話があがったが、頓挫してしまったということなども話題になりました。平成元年に読み聞かせの会であるかたつむりの会ができたことや、益子における文庫活動についての話題があがりました。個人の思いに関わる部分では、利用者が少なく、入りづらい思いをしたという話や、入っていいかわからず、入れなかったという人の声、初めて益子の図書室に来た時に衝撃を受けたという声、いろいろな個人の気持ちや思い出が重なりあって共感を生み、とても話が弾む時間でした。それぞれに共有する部分があることが分かって、そこから互いに現在と未来について話し合う姿が見られ、図書館があることでどのようなことができるか、どういう風に町が変わっていくか、その日集まった

人の中で期待が高まっていくのが、私たち事務局にも肌で感じられる瞬間でありました。図書館が町の人たちにとってどのような場所になれば良いだろうかというところで図書館と町の未来について挙げられた意見ですが、子どもたちが世界の広さを知ることが出来る場所。老若男女問わず楽しめる場所。誰にとっても居場所となることができる開かれた場所といった意見や、益子町のことを知ることが出来る場所になってほしいという意見が挙げられております。また、ストリートピアノの設置や、ジャズコンサートの開催、天文台とコラボした星を見る会など、非常に夢の膨らむ提案までなされました。これらを単なる夢で終わらせないように、工夫を凝らしていく必要があると、個人的に感じたところであります。ワークショップの報告については以上です。

続いて、同日行われた報告会についてですが、こちらはワークショップの後、午後実施されました。子どもの読書活動推進計画の報告会と図書館の講演会を実施いたしました。報告会においては、図書館ができる令和7年までの、今から5か年にわたる計画期間において、子どもたちに図書を届けるために、移動図書館の導入等、現在計画されている様々な施策についてご説明させていただきました。講演会では、渡辺梓様にご講演いただきました。報告は以上になります。係長／ここで視察やワークショップ、講演会に参加された委員の方からご報告を受けたいと思います。

委員／こんにちは。お世話になっております。先日、図書館の視察に伺い、二つの図書館を見せていただきました。回らせてもらって感じたことを少しお話ししたいと思います。はじめに伺った須賀川市の図書館は、規模がすごく大きくて、予算的に考えても、とても真似するのが難しいところが多いのですが、勉強になるところもいくつかありました。それは、環境にすごく配慮した建物を作ろうと努力すること。それと、その地域の道などと、どういうふうにコネクしていくか。一階部分が、道と道に挟まれた建物でしたが、高低差が2m近くあるのをスロープでつなげ、町と連続性を作っているのが大変勉強になりました。益子町には里山があり、今回作る土地は、百目鬼川が近く、自然が豊か。どういうふうに建物と自然の連続性を見出していか、考えて作るべきだと思いました。それと、ランニングコストをどういうふうに抑えていくかという観点から、自然エネルギーを積極的に使えるような建物を作っていくということですね。そういうことを見させていただきました。

次に伺った白河の図書館においては、司書の生活を考えて、給料を一般の役場の公務員と同等の給料を出すことで、男性でもその職に就けるような状態にもっていくことや、中で働く人の動線を考え、大量の本をさばけるようにしていること。限られた予算、益子がつくるであろう図書館に近い予算で建てられていますが、しっかりと本を買う予算を付けることをやっていました。先ほど聞いたところによると、益子町が考えている本を買う予算は10分の1だと。白河が住民一人当たり年間500円と考えているのに対し、益子町は40数円。それで、司書が生き生きと選書できるかという、もう少し考えた方がいいんじゃないかと思いました。その4点、建物の持続可能性。自然との連続性。司書の生活を考えること。本の購入費用と動線。そういったことを考えました。以上です。ありがとうございました。

係長／ありがとうございました。

委員／あらためまして、こんにちは。参加させていただき、2か所見せていただいた。どちらも直営で、内容がよかった。司書や、対応される人が図書館を作っている。図書館が人を育て、その図書館を運営するのも人なんだとつくづく感じました。先ほども出ましたが、蔵書の予算が白河市は一人当たり500円。それがショックでした。それを言ってくれたので、これ以上は言いませんが。これから図書館として益子町が作っていくには、今の図書室のようなものでは全然足りないとつくづく感じました。中の蔵書についても、専門書コーナーがありました。益子なら窯業や手作りのものについて、これから考えてもらえると思っています。図書館をこれからつくるにあたり、参考になることがあった。規模は違うけれど、ヒントになることはたくさんあった。益子に作るのであれば、子どもたちが歩いて自転車でも来れるような、デマンドタクシーでも来れるようにして、それに沿って蔵書を揃えていただきたいとつくづく感じました。白河には漫画の本がたくさんありました。益子にもああいうコーナーを作ってほしいという希望を持っています。今後、皆さんとの話の中で、そういうものも必要だと訴えていきたいと思っています。バスの中でも話しましたが、本は紫外線に弱い。建物の重要部分のガラスは、UVカットがこれからは必要なんだろうなとつくづく思いました。人が働ける給与面や、何人司書が来てくれるかわかりませんが、そういう方が選書できるような予算を確保できるように、議会でも言っていきたいとつくづく感じました。以上です。

係長／ありがとうございました。

委員／ワークショップと講演会ということで、ワークショップについては、ここで初めて策定委員会3回目のときにワークショップをやって、こんなにワークショップをやるのが楽しいものかと気づきました。来るまでは、どんな話をどんなふうにしていくのか、難しい問題だから、どういう風に取り上げるのか、疑問に思っ出席しました。出席してみると、アドバイザーの方のアドバイスがわかりやすく、自分の意見を素直に話せる場を設けてもらいました。先日のワークショップは一般の方が入り、子どもが幼稚園か小学生くらいの若いお母さんも同じグループになりました。その方もとても前向きで、こういう図書館があったらいい、こういう図書館になったらいいという意見をたくさん持っていました。私も、もうちょっと自分もしっかり考えないと考えさせられまして、ワークショップはとても大切だと思いました。できるだけ若い人、年を取った方もいいのですが、小さいお子さんを持つお母さん方には切実な問題だと思うんですね。将来を考えると、図書館、本と接するのは、子どもにとっても大きな影響を及ぼしますし、それは結局まちづくりにつながっていく。そういうことをすぐ考えました。図書館は、町の中で、町を作っていく施設になっていくことも必要なのかと感じました。

講演会の方も聞かせていただきました。講演会は時間がなかったらしく、講演者の方の言いたいところの半分くらいで終わってしまったのかなという感じがしました。聞きたいところが聞けなくて、ちょっと残念な感じがしました。でも、ちょっと違ったところでの環境への配慮の仕方などは勉強になりました。以上です。

係長／ありがとうございました。

委員／須賀川と白河のお話がありましたが、一番感じたのは、町民として新しい図書館を作るときに、どういう心構えを持っていたらいいかと。どちらの図書館の方々も、本に対して、図書館に対してすごい情熱をもっていらした。益子町の住民が図書館を建てるときに、どれだけの人がそれだけの情熱をもって話せるのかと感じました。そこからのつながりで、ワークショップがすごく勉強になりました。いろんな年代の方が来て、一生懸命考えて、アドバイザーもうまくリードして、皆さん方の意見のいいところをぐんぐん引っ張ってくれる。あれを町民1人1人に、もっと大勢の方をワークショップにつれてこないか。益子の図書館を建てようという気持ちのふくらみが少ないのではないかと強く感じました。以上です。

係長／ありがとうございました。まだまだたくさんの方にご報告いただきたいところですが、時間の都合により4名の方に代表していただきました。大変ありがとうございました。最後にご説明するつもりでしたが、ワークショップについて資料の最後のページにチラシを入れさせてもらいました。次回、6月5日(土)午後1時半から、中央公民館研修室で実施します。今のところお申込みの方が10名いらっしゃいます。前回参加してくれた高校生とか、参加していただくことになっています。まだ空きがございますので、ご参加できる方、帰りにお申し込みの方よろしく申し上げます。今回は、「求む特派員!!“今”を伝える益子メディアづくり」というテーマで、まだ図書館建設の話を知らない方もいると思いますので、そういう方にメディアを作って情報発信できたらいいなというワークショップになります。よろしく申し上げます。

また、先日視察いたしました須賀川市民交流センターtetteの元センター長、建設の最初からいらっしゃった佐久間さんに来ていただいて講演会、ただの講演会ではなく、交流会というか、1時間ほどお話をいただいた後に皆さんで意見交換できる企画も考えています。そちらも正式決定したら通知を出させていただきますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。それでは、(1)、(2)の報告について終わります。

委員長／それでは、(3)アンケート結果、ワークショップ結果の分析について。

アドバイザー／みなさん、こんにちは。よろしく申し上げます。それでは、ワークショップの話に入りたいのですが、先に皆さんのコメントを聞いた感想など述べさせていただくと、焦らずいきましょう。ゆっくり、確実に、じっくりと。須賀川も印象が良かったようで幸いですが、あそこも8年前はそんなふうではなかったです。いろいろなご意見がありましたし、特に震災からも日の浅い状況だったので、「こんなことをやっている場合か」という声もたくさんありました。でも、私自身何かやるときに大事にしている言葉なんです、「結果を出す人間は優秀な人間ではなく、あきらめない人間だ」。あきらめないことが肝心。これはすごく大事なことだと思っていて、粘り強く続けた人だけが最後に立っていて、あきらめた人は大体そこで終わる。須賀川は、私も感心したのですが、激甚被災地だったので、その強さを感じました。あきらめないでやっていくんだ、町がめっちゃめっちゃになったところだけに、絶対ここでやっていくんだという皆さんの強い思いがあったからこそ、ああいう結果につな

がっているのかなと思います。そういう意味では、決して益子は劣っているわけではないので、益子は益子らしくやっていけたらなと思っています。いずれにせよ、先進地というか、他の地域を見に行くことはいい刺激をもらえると思いますので、厳しい環境下ではありますが、皆さま、お出かけの際には少し足を延ばしていただければと思います。

それでは、ワークショップとその他アンケートの分析ということで、こちらの大小の文字が書かれている資料を見ていただければと思います。前回の年表づくりのワークショップの話も出ました。ここに至るまで、コロナに影響されて苦戦はしているのですが、いくつかワークショップ的なものやアンケートはしてきました。こういう検討において大事なことの一つは、中長期的に出てきた意見を見ていくことです。話がつながっているようにする、連続性があるようにということです。その都度、良い意見は出るのに、そこで盛り上がり次回忘れていくというのはよくあることです。だからこそ、記録を取るのがとても大事なのですが、記録を取ったうえできちんと活かしていかなければ始まらないと思います。今日みなさんに見ていただきたい、そして、この後のグループごとの議論で参考にしていきたいのがこちらです。

まず最初、12月17日の学校保護者ワークショップの分析というのをご覧ください。後ろに実際の成果物も貼られていますが、この場でも基本的に集まっていた町民の方に、図書館でこんなことをしたい、図書館ができるってこんなことじゃないかというのを話し合っていました。そうやって付箋に書いていただいた文字をすべてデジタルなテキストに起こした上で、自然言語処理、コンピュータを使った処理を行いました。これがどういうものかという、一連の皆さんが書き出した言葉の中で、よく使われているフレーズは何か。また、日本語にはいろんな文章の構造がありますが、文章の構造として捉えたときに、より重要と思われる表現は何か。といったことを、コンピュータ、AIを使って分析できます。その結果がこの資料の1枚目です。ご覧ください。重要なキーワード、繰り返し使われて、かつ、回数が多いだけでなく、ユニークさの高いキーワードが大きな文字で表示されています。たとえば、「本」はよく使われていますが、「本」はポピュラーな言葉ですよ。それに比べて特徴的なのが、「益子」や「益子焼」。これは、ユニークネスの高い言葉です。「益子」といえば、普通、ほとんどの日本に住んでいる人は、焼き物で有名な益子を思い浮かべると思います。益子といったら、日本語においては人名じゃなければ地名と捉えられるくらいユニークネスの高い言葉です。そういったものを大きな文字で表示しています。そうやって見ていただくと、この学校保護者ワークショップにおいて重視されたのは何かが見えてきます。やはり、「益子」が大きい。「焼き物」という部分ですね。「図書館」とか「読書」とか、意外に比較的普通くらい。「手仕事」「多文化」「キッズルーム」などが出ています。私自身、へえーと思ったのが、ワークショップの時は気づかなかったんですが、このような形にしてみると、「1日」「過ごす」というキーワードが見られたことです。まず、これはこのように見てください。これが、保護者の方を中心として行ったものです。

次、その下に、子ども読書活動推進計画で、自由意見として好きなことを書いてもらいました。こ

それを、事務局が全部文字に起こしたものをテキストでいただいて、同じ処理をしました。少し小さいですがご覧ください。左が小学生、子ども本人です。右が小学生の保護者が書いたもの。小学生の間では「本」というキーワードがかなり強く出ています。小学生にとって、やはり図書館＝本という認識を強く持っているからでしょう。そして、これは大人としての責任を感じさせられますが、「ほしい」。図書館ほしい。これは子どもたちからの強いメッセージだと感じました。それ以外にも、「過ごせる」というキーワードが出ています。これはどういう文脈なのか、この資料だけではわかりませんが、「お年寄り」というキーワードもあります。多分おそらく、お年寄りの方も過ごせる場所にしたいというような、泣ける話だと思います。益子の子どもたちが多世代、自分のおじいちゃんやおばあちゃんのことも考えた答えなんでしょう。次に右を見てください。保護者ですね。その子たちの親御さん。親御さんたちからすると、「子ども」というキーワードが出ていますし、「ほしい」もまあまあある。特徴的なのは、「スペース」。場所。そういう何かできるスペースがあるといいよね、という声が多かったと思われます。もう一つ、その左上の方に「通しやすい」「行きやすい」という表現が出てきています。

さらにめくって、次を見ていきます。今のところはなんとなく何がポイントかわかりやすかったのですが、次は中学生ですね。隣は中学生の保護者です。中学生の場合も「ほしい」が強いのですが、「益子町」の下に「立ち寄れる」があります。これは小学生との違いです。自転車での移動距離が小学生より長いので、自分たち自身が立ち寄るという意識が強く出ています。どこにできるにしても、小学生の場合、自転車で行くのは近所じゃないと難しいと思うのですが、中学生の場合は、自分たちが行く場所という認識があります。「ライトノベル」もこの世代の子供らしい。右側の親御さんになると、やはり「スペース」が強く出ていたり、「開館時間」や「借りやすい」「通しやすい」があります。

そして、さらに下に降りてください。高校生はより顕著です。「通しやすい」。高校生の場合、完全に自分たちが行く場所だと強く認識していることが表れています。その右側が幼稚園や保育園の保護者さん。「スペース」。親御さんはやはり、スペース、場所があるということを重視されていることがわかります。高校生に戻ると、おもしろいのが「真岡線」。この町の高校生たちの移動動線を最もよく示していると感じました。

これらの世代を全部通してみると、小学生、中学生、高校生ごとに、その施設の捉え方に微妙な変化がある。年齢に付随して、自由に移動できる範囲の感覚の成長が強く表れていると考えられます。ここから何かを学ぶとすると、中高生たちは比較的自力で来れるという前提で考えてよいのだろうと。他方、小学生にはアクセスのサポートが大事だとわかります。感動したのは、子どもたちから「お年寄り」というキーワードが出てきたこと。都会に比べて多世代意識が強いのではないかと感じた次第です。

その次、分析データ<3>です。これは前回の委員会の中で、皆さんにワークショップとしてお互いの考えを語り合っていました。一番左上から順に、5人の方と話し合っていて、皆さ

んの考える図書館のイメージを話していただき、最後の1マスに皆さんと話した上で自分が考える、自分の図書館の考え方を書いていただきました。それも分析して、結果はこのようになりました。「益子」、益子ならではの、益子らしいというキーワードが非常に強く皆さんの意識に見られました。それ以外ですと、「コミュニティー」、「集える」、「入りやすい」「くつろげる」、「過ごせる」とかですね。

印象的だったのは、ここまでの他のデータも含めて見ると、すごく大きな声ではないんですが、ほぼ一貫して出てくるのは、「1日過ごせる場所である」という声です。これは私も半年くらい益子にお邪魔して、皆さんと話さず中、なるほど、という感じがします。1日何もせずになんとか無目的で過ごす場所って、なかなかこの町の場合難しいかと、実際に来るときでも感じていて、バス待ちの、何をしてもないこの時間をどうしてくれよう、と。微妙に過ごす場所はないよな、と感じています。結局セブンイレブンか？と。これはみんな、世代を超えて、時期を超えて感じていることなんだろうと思います。

最後、年表のワークショップは少し趣向が違いますが、過去、現在、未来で分析してみました。過去に関しては課題面も出ていますね。「入りづらい」。一方で、「文庫」とか「読書会」といった活動の話が強く感じられました。現在に関しては、「いわむらかずお」さん、「移動図書館」の話題が直近に出たこともあってそういうキーワードが出たり、「学校司書」、学校って大事だよなという話もありました。未来に関して言うと、非常にわかりやすいですね。「益子」。「図書館」。「移動図書館」。といったことが、これから実現していくべきものだよな、ということが出ていたかと思います。ちなみにこういうのを「ワードクラウド」、文字の雲、というのですが、これで示したのが今回のデータになります。この後、もう少し詳しいデータで説明したいと思うのですが、まずここまでご覧いただき、この後の議論で、これが自分たちの、この場や、この場にいらっしゃらない町民を含めた、この事業に関心を持っている町の方々の意識にあるキーワードなのだと意識して議論いただくと良いかと思います。そうすることで、冒頭に申し上げた連続性が出てくるんですね。今日ここにいなくても、前に誰かが発した言葉がちゃんとバトンパスされて、皆さんが「そういえばこんな言葉が出ていたけれど、これってどういうことなんだっけ。これをどういうふうに形にしていこう」という感じにまとめていただくと、多分、ワークショップには参加したという方にも、計画ができたときに私の意見が活きているという実感につながってくるんじゃないかと思います。説明が長くて恐縮なのですが、こちらのより細かい資料を担当者が分類、整理してくれたので、担当から整理して気づいたことを皆さんにご紹介したいと思います。

担当／先ほどの説明と重複する部分もありますが、もう少し詳しく整理してみました。皆さんが書いてくださった意見を大きく4つのグループに分けました。1枚目から、益子の町のこと。次に読み聞かせ等の今行っている取り組み。蔵書について。空間、建築等のハード面の4つに分け、その中でも多く見られた意見がいくつかありました。まず、益子の歴史については、有名な益子焼が良く出ていて、益子焼をはじめとした歴史があるんですが、今の図書館には郷土資料があまりないので、

次の図書館では充実させてほしい。空間で言えば、そういう資料を置くコーナーがほしいという意見がありました。「空間」の大まかなイメージのところに皆さん書かれています、今の図書館は入りづらいので、次の図書館では誰でもいられる、休日に1日いて楽しめるという居場所としての図書館が求められていることが分かりました。老若男女、いろんな人が来られる図書館と書かれていた中でも、子どもが楽しめる図書館がすごく求められていて、子どもが1日過ごせる図書館だったり、ママさんも楽しめる図書館というイメージもありました。子どもに関する意見は、「空間」だけでなく、「取組」に関してもあり、過去から現在の意見で、マイナスイメージの意見が多かった中、唯一のプラス要素として読み聞かせが盛んだということが挙げられていて、読み聞かせの会を次の図書館でも引き継いでやっていきたいという声が多くありました。学校図書館との連携で、貸出が充実するといいなという意見もありました。最後に、図書館として使いやすいようにしていきたいという意見が多くありました。取組についてが多いのですが、「援助/体制」の項目のところ、今の図書館が使いづらいので、貸出を充実させてほしいとか、移動図書館についてが多く出ています。バス等、交通手段の充実や、司書がいて、気軽に相談できる便利な図書館にしてほしいという要望もありました。益子の歴史を伝えていける図書館で、みんなの居場所になって、子どもをはじめ誰でも使いやすい図書館にしていきたいという意見が結構見られました。以上です。

アドバイザー／質問や、気になっていることがあれば。本来、ここまでの分析はうちもなかなかやらないのですが、せっかくだいいデータが入ったので、やってみました。なかなかよい気づきになるかと思えます。私自身、こういう委員をさせていただいたり、ワークショップのお手伝いをさせていただくことも多いのですが、いつも課題と感ずることがあります。それは須賀川でも実はそうで、須賀川市はたくさんワークショップをやりました!ということになっているんです。でも、それは実は課題でもあって、回数だけをやり過ぎて、何の整理もされていない意見ばかりがすさまじい量あったんです。ちなみに、そこで收拾がつかなくなった結果、我々が呼ばれたというのが裏の話です。やっぱり意見は整理していかないと意味がない。言いつばなしの意見、ただ言うだけの意見をいくら集めても意味がないんですね。特に、この仕事をしていて課題だと思うのが、我々コンサルタントや、この先設計建築に進んだときにデザイナーや建築士が、そういう積み上げられた意見のリストの中から、自分がやりたいことに都合がいい意見をつまみ食いするんです。たとえば、自分はカフェを絶対入れるべきだと思っていたら、ここに「カフェがほしい」という意見があるじゃないか。町民意見に基づいてカフェを入れますよ、と。でも、それは違いますよね。1000個の意見があるうちの1000分の1の意見に過ぎないのだったら、それは合意がある意見でもみんな話したわけでもなく、たまたま1人の思いにすぎないわけです。それを公金、税金を使って実現するには課題があるわけです。ある程度みんなの中でぼんやりとでもいいから、共通したイメージがあることに公金はあてられないといけない。難しいところですけどね。みんなが理解するものって、得てしてつまらないものになることもあります。ごく一部のしか理解できないものの方が、ふたを開けてみるといいものになることもあるので、そこはバランスだと思います。でも、いずれにしても、何も整理していない

のはまずい。そのために、今回のように問題整理をしてみたんです。さらにいうと、ここで大きな文字になっているというか、入っていないものもありますので、そもそもここに入っている時点で、皆さんの中で集合的な価値観として、大事だよ、あるいは問題があるよ、ということが、これらの言葉の中には含まれているんだらうと思います。今、行政の中でも注目されているのが、今後そうしないといけないと言われていたんですが、エビデンス。何かの証拠や根拠にきちんと基づいて政策決定をしよう。エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング（Evidence-Based Policy Making）。言いづらい言葉ですが、EBPM です。これは、医療の分野でエビデンス・ベースト・メディスン（Evidence-Based Medicine）、科学に基づいた医療を行いましょうという考え方を応用したもので、だんだん行われるようになってきています。世間的に批判もたくさんある 8 割おじさんの話などは、まさに EBPM なんです。実際行動抑制をするとこうなる、という試算をきちんとした上で政策を行っていきましょうという EBPM の典型なんですけど、今回、この益子での取組でも、こういうふうな一定のエビデンスをきちんと残して、これに基づいて町民委員会で議論しましたよという形で記録を残していけるといいなと思います。なんといっても、町民委員の皆様にも一定の責任がある中で、別に自分たちの思いだけで好き勝手言ってたわけではなく、本当に多様な意見を踏まえて、町民代表として頑張ってきてきちんと考えたよと言える証拠にもなるかと思っています。ぜひきちんと残しておいて、いずれ図書館ができたときには資料として納めておいて、後々図書館を使う方に、こういう思いがたくさん詰まって作られた施設なんだと伝えられるといいなと思います。長くなりましたが、説明の方は以上です。

委員長／ありがとうございました。アドバイザーから説明がありましたが、ご意見やご質問があれば。委員／前後してしましますが、最初の委員報告にもありましたが、当初の建設、蔵書の予算はどうなっているんでしょうか。

委員長／これからだと思います。

委員／当初どれだけの予算で本を準備するかは、まったく？

委員長／これからです。

委員／よその視察だと、一人頭500円。益子町は50円に満たないと。仮に50円として、益子の人口が今どれくらいでしたか、たとえ2万5000としても、120万くらい。先ほど聞いたら年間90万円しか予算が無い。これでどれくらい本が買えるんですか。マンガだったらたくさん買えるけど、専門書になるほど高額になる。どういう本をどういうふうを選定して増やしていくのか。それをどなたがやるのか。毎年どういう本が欲しいか、町民にアンケートを取ったりするのか。そういったことも問題になってくるのではないかと、話を聞きながら思っていました。市なので、益子町より人口も多いので、予算的にも10倍どころではない予算がついていると思う。その辺を町としてどう考えているか気になります。今日は途中で抜けないといけないので、先に聞きたいことは聞いておきたいと思いました。以上です。

係長／今の質問ですが、まず今の図書購入費については95万です。今年度は新型コロナ関連の

補正予算が付きまして、さらに100万。195万が現在の予算です。昨年度まではずっと95万が続いていた状況でございます。どのような本を選んでいるかについては、4月からは地域おこし協力隊で、司書の資格を持っている職員を採用しまして、選定基準をこれから作ろうというところです。今まではどうしていたかという、前回のワークショップで挙がった通り、20年前は司書の資格を持つ職員がいて、選書をしていました。その当時は、選書方法もしっかりしていたと思うのですが、その職員が異動してしましまして、司書がない状態になり、一職員がやっていました。その都度来る図書館の案内を調べて職員がやっていた状態が続いております。また、図書室には常駐の職員もなくて、呼ばれれば行くというスタンスでした。数年前からは専属の職員もつくようになりました。今後につきましては、今日はアンケートの結果やワークショップの結果を分析していただいて、それを基本構想の中に取り込んでいきたいと思っています。基本構想の中に入れていたけれど、意見が無いから削除しようという項目も出てくるかと思えます。すべての意見を取り入れるわけにはいきませんが、こうした作業をしていって、蔵書の数とか次回以降に決めていきたいと思っています。施設規模の関係もありますので、まだ先になるかもしれませんが、そういう形で決めていきたいと思っています。

(3)に戻ると、またグループを3つに分けさせていただいています。このグループの中での分析の時間を20分くらいとりたいと思います。最大でも30分、4時半くらいまでと思っていますが、まずは4時20分を目安に皆さんで分析していただきたいと思っています。机の上にアンケート結果とか基本構想とか、今までのいろんな成果を置いてあります。部屋の北側に今までのワークショップの成果も掲示していますので、それらを見ていただきながら4時20分目安で各グループで話し合っただきたいと思っています。このグループとしては、この意見が多かったから、こういうものを取り入れていきたいというのを、5つでも6つでもまとめていただきたいと思っています。この後、A4の白紙の用紙をお配りしますので、マジックでそちらにまとめて、各グループから発表していただきます。よろしくお願ひします。今回の委員会ではこういう意見があったということ踏まえ、基本構想を訂正したものを次回皆様にお配りして、本格的にもんでいく形になります。こちらとしても、補助金の関係、区画整理組合との調整を行いながら、基本計画を構想ベースで作っていききたいと思っていますので、よろしくお願ひします。それでは、とりあえず4時20分を目途にお願いしたいと思っています。

(各グループで検討)

係長／だいぶ時間が過ぎましたので、各班からどういう意見が出たか報告していただきたいと思っています。よろしくお願ひします。まずB班から、前の方へお願ひします。

B班／まず、一番先に私たちのグループで出たのは、「誰でも」「ゆったり」「1日過ごせる」、そういう図書館がいいかなと。バリアフリーで、体の不自由な方も、精神的な障害のある方も、誰でも使える図書館。そのために、継続的なボランティアを違う形で作って。アドバイザーからもお話があっ

たんですが、自分たちでお金を出し合って、図書館とは別にボランティアの団体を作って、図書館を助けていく、そういう形をとれたら。それから、飲食スペースはやはりほしい。カフェのイメージではなく、1日いると、お昼もある。そのときに食事が食べられる、そういうスペースを作ったらいいんじゃないでしょうか。カフェと考えず、「食べられるところ」という考え方がいいかと。それから、図書館は、やはり本を読みに行く、本が中心になっているわけなので、それを忘れないようにして、それを基本として、そこにいろいろな違ったイベントを含めて、本を読むだけでなく、映画や講演会があったり、そういうことをやっていけたら。それから、これはボランティアにもつながるが、高齢者でも若い人でも、今自分が持っている技術を他の人に伝えていく場を、図書館の中に作っていったらいいのではないかと話し合いました。それでは、補足をお願いします。

B 班／今していただいた報告がまさに骨子になるんですが、継続性が重要という議論をしました。図書館を建てて終わりではなく、「図書館は成長する有機体である」という言葉があるように、だんだん蔵書を充実させていく中で、みんなで図書館を成長させていく。継続的なボランティアや町民と町の協働が必要になっていくということが議論になり、基本計画でこれを推進していくにはどうしたらいいかを取り入れていきたいと、事務局として思いました。

係長／B 班の方、ありがとうございました。続きまして、C 班の方、よろしくお願いします。

C 班／C 班は、子どもたちや高齢者の足について、特に七井地区などの話をしました。土地区画整理事業の場所に決まったので、そこまで行くのは大変。1日過ごせるような、ゆったりできる場所であるなら行きたいんだけど、行けない。子どもたちも学区エリアとか、そういう制限があるので、難しいけれど、1週間に1回でもいいからバスなどを用意して、田野や七井から子どもたちだけでも行けるように。他のところなら真岡市にあるような、100 円程度の負担で行けるような場所であってほしい。ましコッコハウスの近くなら、連携もできていい。食事スペースもあれば、近くにコンビニもあるので、ちょっと買ってきて食べられるような、そういう場所があればいいなと思いました。区画整理地帯は、隣にあたるので。実現するかどうか、そういう場所であってほしい。あと、いわむらかずおさん。年表ワークショップの分析で、過去と現在にいわむらかずおさんの名前があるけれど、未来にはなかった。いわむらさんに限らず、絵本が幼児期に与える影響はすごく大きいので、それをうまく利用できるようなものを集めていただければいいという話をしました。あと、郷土資料。益子焼、益子に共通することが多い陶器関連、手仕事関連、農業関連の本も集めたコーナーを作ってほしい。あと、大沢文庫の歴史を紐解いた資料コーナーもあればという話が出ました。要するに、子どもから高齢者まで、多くの人利用できて、過ごしやすく1日いられるような場所になってほしいというのが基本です。以上です。

係長／ありがとうございました。最後に A 班、よろしくお願いします。

A 班／A 班は、事前に渡された資料を読んでいた際に、熱烈に図書館建設に反対する人たちもいる。そういう人たちにどう接していったらいいか考えたという話から始まりました。そういえば、反対の立場から提言書を出した人たちもいたが、その提言書を委員会で見ていない。そういう意見を

黙殺した形になってしまうと、誰にも見てもらえなかったと思われて、より頑なになる方もいるかもしれない。読んだことを伝えて、その上でこういうふうに進めるようにした、それはこういう理由からだ、説明できるような、いろんな立場の意見を持っている方と交流しながら進めていくような、図書館建設の進め方をできたらいいねという話をしました。その方が、より豊かな、みんなが納得できる図書館になるのでは。まず、町民から寄せられた意見を共有して、様々な意見を持った人と話し合いながら前進できる図書館づくりをしていけたらいいねということから始まりました。その後、AI分析された意見を見て、気になるワードとして、「益子」はすべてに出てくる。また、「スペース」を核にして見たらどうなるか。関連するワードを色分けしてみました。すると、「益子」なら「陶土」や「益子焼」「手仕事」「多文化」が出てきました。つまり、郷土資料です。まとめると、成長する郷土資料をつくれるような図書館がいいのではないかと。郷土資料は、陶芸の里である益子、同時に、里山をつくり、共存してきた益子を丁寧にまとめた資料で、過去どうであったか、今どうかを見て、未来はどうあるべきかまで踏み込めるような図書館である必要があるのではないかと。それが益子町のアイデンティティ、人格を持った図書館につながるのではないかと話しました。「スペース」でいうと、「～しやすい」というワードがたくさん出てきます。「通いやすい」「入りやすい」「借りやすい」「くつろぎやすい」「行きやすい」「使いやすい」「わかりやすい」と、いろんな「～しやすい」が出てきます。その要望をどうクリアできるかを考えていけばいいのではないかと。たとえば、「通いやすい」なら、駐車場を大きくするのもそうですが、逆に図書館が出るということで、移動図書館をしたらいいのではないかと。「探しやすい」であれば、司書の方に頑張ってもらって、気さくに話せて、悩みも聞いてくれながら、面白い本を薦めてくれるような司書に入ってもらえれば。そういう図書館を頑張っつくりたいという気概をこちらも持つとか。後は、「誰でも集まれる」なら、読書会などの催しを考えたり、読み聞かせを子どもたちに提供したりとか。「借りやすい」なら開館時間を長めにとるとか、夜に寄せるとか、そういうことも考えて、「～しやすい」を積極的に考えていけばいいのではないかと話し合いました。以上です。

係長／ありがとうございました。今回出た意見は、基本的に基本構想をベースにしたものなので、基本計画には不足する部分もあると思います。そこを付け加えて計画を作っていきたいと思います。蔵書計画等、いろいろなことを付け加えて、計画としていきたいと思います。次回は、今日の意見を取り入れたものを計画案として、皆さんにも事前に配布するようにします。できれば6月中にまとめて、7月早々に。遅くとも1週間前には皆さんのお手元に届くようにしますので、それを見ていただいて、次回の委員会に臨んでいただきます。それを修正して、案を作っていく形にしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。アドバイザーから何かありますか。

アドバイザー／みなさん、お疲れさまでした。ありがとうございました。今お話があったように、これを計画にしていくということで、いい形になるように、私もお手伝いしていきたいです。計画とはどういうものかということだけ、少しご説明しておきます。計画ができあがると、次は設計に入ります。計画書というのは、建物を実際に形にしてくれる建築士や設計士に対する申し送りです。こう

いうことをしたいので、具体的なことをお願いしますと。そういう意味では、計画は別にそれほど具体的じゃなくていいです。一つ気を付けていただきたいのは、餅は餅屋ということです。こういうスペースがほしい、こういうことができたらいいというのはいいんですが、たとえば、カフェスペースがあるとして、シンクのサイズはこれくらいでとか、そういうのはいらないんです。それは、プロに任せればいいんです。そこはプロに丸投げすべきところで、こういう計画でうまくいかないケースでは、行政や町民サイドが細かいところまで決めすぎているんです。そこは、私たちが信頼する人を選んで、その人に考えてもらう。その人が考えてきたことに対して、意見を交わして変えていけばいい。最初にそこを決めすぎてしまうと、設計者としてもおもしろくなくなってしまうんですよ。それだったら建売住宅と同じじゃないかとなってしまって、自分の発想が活かされなくなる。今日出ていた意見はとてもいいと思います。継続的なボランティアができるとか、チャレンジの場としてとか、そういうものが提示されたときに、その設計者は、それを形にするために何ができるかを考えて、とてもクリエイティブな仕事ができる。ですから、こういうふうに覚えておいていただくと良いかと思います。今までにもお話ししていますが、あれがほしい、こういう機能がほしいではなくて、何がしたいか。たとえば、「誰でもゆったり1日過ごせる」というのは、典型的な「こうしたい」ですよ。これはすごく深いと思います。これをどう解釈するか。益子の皆さんにとっての「ゆったり過ごせる」とは何なのか、人をだめにするソファのようなものを置けばいいという話ではないと思うんですよ。益子の皆さんが1日を過ごせる場所を考えるなら、益子の皆さんの日々の暮らしを知らないといけない。皆さんの家には何が無いんだろうというのも気になります。これはすごく良い表現で、こういう形で皆さんがしたいことをたくさん出していただけると、設計者はものすごく燃えて、いい仕事ができると思います。ぜひ、そういう申し送りであり、「したい」集、かっこいい言い方ならウイッシュリストですね。こうしたいな、ということをもとめていって、議論していただけたらなと思います。

係長／ありがとうございました。だいたい時間は過ぎましたが、(4)に入ります。資料のご確認をよろしくお願いします。資料を2枚めくった裏に、横長にスケジュールを記載させていただきました。前回3月のときに次年度のスケジュールとしてお伝えしていたところではありますが、変更点が1か所ございます。8月27日の第6回策定委員会までは一緒なんですけど、その後、パブリックコメントを9月に予定しておりました。これを、10月5日以降、第7回策定委員会の後にしました。理由としては、場所が土地区画整理事業内に決まったところですが、組合と打合せをしまして、仮換地計画、図面が組合に示されるのは秋ごろになるという話なんです。そうすると、こちらにも詳細な情報が入るのが秋ごろ。正式にできあがるのが来年の春、4月ごろという話です。こちらに情報をいただけるのが10月以降ということなので、第7回策定委員会のときには、場所が大雑把になってしまうかもしれません。伝えられる可能性が出てくるのが10月以降なので、パブリックコメントは1か月ずらした形にします。皆様にはご迷惑をおかけしてしまいますが、本来であれば10月5日が最後の策定委員会。パブリックコメントをいただいて、10月に完成する予定だったのを、1回委員会が延びまして、11月30日に策定委員会をしていこうと思っています。その後、教育委員会や議会に

報告させていただいて、3月末には報告会と講演会という形で実施させていただきたいというように、一部変更させていただきましたので、よろしくお願ひしいと思います。この後、図書館建設の補助金関係の打合せで県の方に行くのですが、その辺りの打合せ状況も踏まえながら、随時予定表を更新していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

引き続き進めさせていただきます。(5)と4のその他のところでは、次回会議は7月20日(火)午後3時から、2か月後です。皆様には、ホームページにアップしたアンケート結果等をもう一度よく見ていただいて、益子にふさわしい図書館とはというところを読み込んでいただくのと、基本構想をよく見ておいていただきますよう、よろしくお願ひします。こちらでも、遅くとも1週間前、できれば7月上旬には皆様の方に訂正した基本計画案をお送りしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

次に、視察の方ですが、6月29日(火)に町のバスの予約を取っています。視察先は、コロナの状況もあるので、近場で笠間市の図書館を検討しています。こういう状況なので、中止になる可能性もあります。2週間前には判断して、皆様にお知らせしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

次、3つ目ですが、講演会、交流会ということで、最初にご説明したとおり、7月10日(土)を予定しております。須賀川市民交流センターtetteの佐久間元センター長に来ていただいて、講演会と交流会を実施予定です。詳細が決まりましたら、ご案内します。よろしくお願ひします。

それと、次はワークショップなんですが、これも最初に説明した通り、資料の一番最後にチラシがついています。今回のテーマは、「“今”を伝える益子メディアづくり」ということで、まだまだ情報発信が足りていないところなので、皆さんで情報発信をする形のワークショップを行いたいと思ひます。6月5日(土)午後1時半からです。ぜひご参加よろしくお願ひいたします。

今回、通知の中でご案内させていただきましたが、資料の3~4ページにも「益子図書館だより」創刊号をつけさせていただきました。これはホームページにも掲載させていただきます。ちょっと小さくて見づらいですが、アンケート結果で益子町の図書室を知らないという子どもたちもいましたので、ご案内や、除菌ボックスを入れたお知らせ、開館日、新着図書の情報など、また、「あなたとつくる新しい図書館」ということで、ワークショップをやったことなどの情報発信をする広報紙をつくってみました。また、最後にはイベント情報ということで、今までかたつむりの会さんの読み聞かせを図書室で行っていたんですが、やはりコロナの影響で、狭いスペースでやるのは危険もありまして、次ページのチラシの通り、北公園や南公園を使って屋外で実施しようと思ひます。早速今週の土曜日に、午前中は北公園の遊具広場、午後は南運動公園の遊具広場付近で行いたいと思ひます。知り合いに小さいお子さんがいらしゃったら、ぜひ声をかけ、ご参加いただければと思ひます。また、「図書室であそぼう」は初めての企画になります。毎月第2日曜日、このような工作のようなものを、図書室の席が6テーブルありますので、密にならない形で実施したいと思ひます。こちらが毎月第2日曜日、読み聞かせは毎月第4土曜日と定期的に、かたつむりの会のみなさんのご協力をいただきながら実施していきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

以上、事務局からです。今後の進め方等を含めて、皆さんからご質問はありますか。

委員／先ほども話しましたが、いろんな意見が町民から上がってきている。ここに挙がっているものも大切ですが、挙がっていないものもある程度、最低でも目を通したと言えないといけないと思う。意見書などで、図書館に関するものが上がっているなら、策定委員会の委員は少なくとも見てあげる必要があるだろうと思う。それで、それを基に考え、自分なりの意見をつくったり、改善したり、進んでいく方向に対して、どうしたらよりよい意見を乗せていけるか、それを下地に作っていく必要があるのではないか。町の方に上がってきたものは、全部こちらに投げてください、全員に資料として目が届く形で持ってきてほしい。委員の皆さんはどう思われますか。そういうお願いをさせていただくのはいかがなものでしょう。

委員／賛成です。

委員／ありがとうございます。委員長、どうでしょう。

委員長／プライバシーの問題があれば、名前は全部消してもらって、内容だけわかれば。どういう内容で反対しているのか、こちらもわからないと対応できないですね。内容がわかる部分だけ、提供していただければ。

係長／今のご意見ですが、もちろん図書館に賛成、反対の方います。町の事業では、直近では道の駅がありましたが、賛成、反対、いろいろありました。今回は反対というか、意見書という形です。アンケート結果にも、「こんなご時世に図書館を建てるのか」といご意見がありました。皆さんの机にも一部ずつアンケート結果を置いてありますが、それを見てもらうとわかるように、財政的なところを不安視されているんですよ。やはり、町としても情報発信が足りなかったのも、こういう広報紙や、若い方はホームページを見ていただく方もいるので、ホームページも連休明けに更新して新しく作りました。そういう形で情報発信をするようにします。ただ、財政的なことを言えるのは、基本計画がもっと具体化してこない、面積とか決まってくないと何も言えない状況です。もちろん、反対意見を握りつぶしているわけではありません。そういう情報提供はしていきたいと思います。委員長が言った通り、個人情報のこともありますので、難しいところもありますが。意見として、皆さん心配されるのは、財政的なところですね。ここでご説明すると、内容的には、子どもたちが成人したときに負担が増えるのではないかと、非常に将来に不安を感じるというご意見です。予算や維持管理費も含めて、設備投資するわけですから。建築時は補助金を使うので、町の持ち出しも多少はありますが、それほどではなくても、維持管理費も年間何千万かかかってきます。そういうものも、随時情報公開をして、予算を示していきたいと思っています。もちろん、関心のある方は、ワークショップや講演会にも参加していただいています。ご意見を出した方も、ワークショップに参加していただいています。参加していただいて、そういうご意見を持っている方は、情報発信をしてくれていると思います。皆さんからも情報発信をしていただいている。このご意見をいただいたのは半年前のことですが、その後、ご理解していただいた方もいらっしゃると思います。全体的に見ると、財政的な不安が多く、自分の耳にも入ってくる場合があります。前回町長が来た時のように、町の予算はこう

なっていると、ご説明をどんどんしていけばいいと思います。それには、こちらの情報発信も重要だと考えています。ですので、こういう「メディアをつくろう」というワークショップをみんなでしながら、情報を発信していくのが一番大切かと思っています。100%全員が賛成となるのは、おそらく難しいと思います。徐々にではありますが、町としても少しずつ、たとえば読み聞かせを外でやることで、遊んでいるお子さん、お父さん、お母さんが来ていれば、こういう計画があるんだ、こういうワークショップがあるんだと周知をしながら、どんどん参加していただいて、賛成の方がどんどん増えていけばいいなと考えています。一番怖いのは無関心層だと思うので、少しでも関心を持っていただいて、反対の方は財政など反対理由がわかっているの、反対意見も聞きながら、町としてもやっていきたいと思っています。一番重要なのは、アンケート結果をよく見ていただくことです。ここに反対意見もよく書かれています。これを見ながら、皆さんにも一緒に計画づくりをしていただきたいと思います。よろしく願います。

委員／資料は見せていただけるとのことですか。

係長／一担当がこの場でいいとは言えません。教育長をはじめ上の方と相談して、どこまで提供できるか後日判断させていただきます。

委員／教育長のご一存では難しいということですか。委員会が話し合いをする上で、どういった懸念があるか理解しないと検討できないと思うのですが、今後上がってきた意見は検討委員会にそのまま回してもいいと言っていたきたいのと、今まで上がってきたものに関して、委員会に下ろしていただくことについて、教育長が権限があるというなら、教育長はどのようにお考えですか。

教育長／委員会の方に示して差支えが無い部分は、みんなで共有して検討していければと考えています。私もまだ着任したばかりなので、もう一度中身を見直しておきます。

委員／ありがとうございます。それはいつですか。7月20日より前、もしくは20日に資料を渡していただけると。視察のときとか。

教育長／それも含めて、こちらで検討します。

委員／質問です。策定委員会が8回に増えましたが、具体的にどういうことをやるのか、事前にお知らせいただけると。今日も、来てから何をやるのか一気に言われて、こんがらがってしまったので。事前にこういうことを何回目の委員会でやるというのを伝えていただけると助かります。

係長／わかりづらくて申し訳ないです。コロナの関係でワークショップができなかった時期があり、若干遅れている部分があります。ワークショップで、町民の意見をどんどん取り入れていきたいと思っていたので。次回は、先ほど言ったように、基本構想報告書をベースとした基本計画案を作っていきます。今日いただいた意見、アンケート意見等を踏まえて作っていきます。それを事前にお配りして見ていただき、修正していくのが、次回からの流れです。本格的に基本計画の骨子を作っていくのが次回から始まり、それがひたすら続きます。中身をよくて見ていく。第1章はこちらで作りますが、基本理念、基本方針のところから、基本理念の骨子はこれでいいのか、というように、具体的にみんなで決めていく形です。後は、基本方針は交流の拠点で、町民が集い、憩い、交流する

場の提供とあるが、この内容でいいか等、みんなで煮詰めていく形です。これを補うために、後ろの方にこういう活動をするということになるというのが書かれているので、この辺を決めていきます。それが続いていきます。そのために、皆さんには基本構想をよく読んでいただくことと、提言書も読んでいただいて、アンケート結果等を踏まえながら、検討していくこととなります。今日で、皆さんに発表していただく場は終わりになります。発表していただくとしたら、基本方針を一つずつ、グループに分かれて検討する形になるかもしれません。進捗状況によります。20名で一緒に話し合っても、前回なかなか決まらなかったもので、グループワーク的に重点的に検討していただく流れになる可能性もあります。基本的には中身の精査を、より具体的にやっていくのが、次回以降の会の内容になります。最終的に、10月5日には一般の方に見てもらおうパブリックコメントが入るので、ほとんど完成形となります。パブリックコメントをして、一般の方からもいろんなご意見をいただくと思うので、それを踏まえて最後の11月30日に修正して、教育委員会や議会に報告して終了という流れです。7月の第5回から第6回、第7回は、基本計画をどんどん進めていく。次回はそこに蔵書数等、益子町にふさわしい蔵書数はこれくらいというのを入れていこうと思います。それを皆さんにお渡ししてきたらと思います。よろしくお願いします。

他に何かありますか。

アドバイザー／町のホームページの図書ページは驚異の充実ぶりです。あそこに、よくある質問コーナーをつくれればいいんじゃないでしょうか。必ず、いろんな声が出てくるんですよ。多分、説明するのが疲れるくらい同じ意見が来るので、よくある質問に対して、公式回答を作っておいた方がいいかなと思います。今日の委員会の議論でも、委員会で議論した結果、このように考えていますと。たとえば、金とコロナは、最近の2大テーマですね。結構、図書館反対運動がこれで盛り上がりつつあります。10年くらい前に、市長リコールまでいった自治体もあります。大体的場合、よくある質問の共有がされていなくて、誤解が誤解を生み、誰も望んでいない結果になっている。もののはずみは怖いので、そこを文字にして、よく聞かれることにはこういうことだと答えられるようにしておく。費用の問題も、以前町長がここではっきり説明されましたが、あの話はすごく良いと思うので、未来への投資と考えますと言い切ってしまう。その上で、それでも反対だというなら、それはそれで考えることですね。そういうふうに文字にしておくといい。ちなみに、須賀川市のホームページを見ていただくと、須賀川市もかなり批判があったのでFAQをつくっていて、今でも公開されています。Q.いくらかかる？ A.70億円です。と、はっきり言い切って、それに関する説明をしています。

係長／ありがとうございます。確かに、この間の視察で須賀川に行った方はQ&Aの資料をもらったかと思います。今回、広報紙にQ&Aではないんですが、候補地はどんなところ？とか、大雨が降ったら心配だけど大丈夫？とか、こういう形で載せています。なぜ図書館を建てるのかとか、どれくらい予算はかかるのかとか、やはり同じような質問が来るので。ホームページも更新しましたので、その辺りも検討して載せていきたいと思います。委員の皆さんと意見統一されていないと困ってしまうので、そういうものがあれば、皆さんも答えやすいかと思います。なるべく早急に作りたいと思

いますので、よろしくお願いします。

他に何かございますか。よろしいですか。それでは、長時間になってしまいましたが、以上を持ちまして第4回基本計画策定委員会を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。お疲れさまでした。